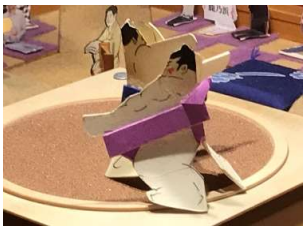
若乃嶋一敗で逸走

横綱若乃嶋が四日目に出羽翼の左を封じてのど輪から押し倒しに降すと、翌五日目の虎剛力戦では水入りとなった4分にも及ぶ激戦を制し一敗を死守し、他にも佐賀ノ海、磯昇、剛勇山、磯光、夢力、角武蔵がそれぞれ一敗を守って先頭を追従する。


若乃嶋○（寄り切り）●虎剛力

一場所での大関復帰を目指す白閃光は四日目は入れ替わりで大関になった魁電を引き落としで辛くも下したものの、五日目、英筏と対戦。右上手からのど輪で英筏を攻め立てるが、そこは懐の深い英筏。がっちり受け止められて叩き込まれた。これで白閃光は3敗目、大関復帰にもう負けられない。

魁　電●（寄り切り）○白閃光

注目の新入幕同士、霧ヶ浜の若巨と九十九の寶蔵との取組み。ともに負けたくない一番だったが、寄り切りで寶蔵に軍配が上がった。ようやく初日を出した寶蔵に九十九親方も一安心だろう。

若　巨●（寄り切り）○寶　蔵

また、一部では宿命の対決と、その対戦が注目されている香具山と九十九。初めての幕内での対戦は幕内経験では先輩の香具山部屋の夢力に軍配が上がった。

夢　力○（寄り切り）●生駒山

西磯野、無敵全勝

五日目までを取り終えて横綱美空富士、大関春ノ翔、平幕剣竜の桐壺系3名が先頭に立ち、一敗で若乃嶋ら7名が追う展開と変わり中日六日目、七日目を迎える。絶好調の美空富士に春ノ翔がこのまま優勝戦線を引っ張り続けていくのか？新入幕ながらも連日得意の相撲を見せる剣竜がどこまで食らいついてくるのか？しかしまだ中日前で一敗勢にも十分にチャンスは残されている。中盤戦も先頭の3名を中心に優勝戦線が繰り広げられそうだが、後半戦に向け展開に大きな変化が起こるのか？

その熱戦に期待が高まる次回は約3週間後の七夕は7月7日に開催予定だ。次開催は早くも夏本番の7月、外気の気温以上に熱気に包まれること必至の土俵に全国の紙相撲ファンの皆様乞うご期待！

（香具山）

四日目、五日目は、ブーケットから帰国した徳川御大（富士浪相談役）が神の手で十両全取組みを叩いた。軽妙な語り口でアナウンサー役を担いながら土俵を叩いて進めていく紙相撲協会創始者の伝説の進行の様子は年1回きりの恒例行事となっている。かつて中学生や高校生として目を輝かせて徳川さんが叩く土俵に釘付けとなっていた親方たちも、今や還暦に届こうかという年齢に達している。「光陰矢の如し」の感を強くする中で、十両の取り組みが行われた。

四日目を終えて、西磯野と友砂部屋の麒麟王が4戦全勝として、五日目に両者の対戦が組まれた。西磯野は育成会でデビュー以降、先場所までの通算成績は19勝1敗と驚異的な勝率で関取昇進を果たした。しかも新十両の今場所も負けなし。

西磯野○（寄り切り）●黒雲海

一方の麒麟王は再十両。黒船の急遽の引退で繰り上がり十両復帰を果たした。引退した黒船のお陰で十両に戻れただけに1場所でまた幕下に陥落というわけには行かない。「黒船関の分まで頑張る！」と強い決意で土俵に上がり、見事に4連勝と好スタートを切った。

麒麟王○（寄り切り）●剣　灘

両雄の注目の一番は、西磯野が左を差してからの素早い出足で麒麟王を寄り切りに破った。鹿賀乃戸親方はこの一番を見て、「いやぁ～！西磯野は強いねぇ！誰が土をつけるんだろうか？」と思わず唸った。確かに、このまま行くと全勝優勝も夢でなく、番付運が良ければ十両を1場所で通過して入幕ということもあるかもしれない。春日根親方も紙相撲が楽しくてしょうがないというところだろう。

西磯野○（寄り切り）●麒麟王

幕下は勝間田勢優勢

五日目を終えた結果、早くも5戦全勝は新十両で春日根部屋の西磯野一人となった。麒麟王は敗れて1敗となったが、その他では日向藤、葵盛、太刀鳳の3人が1敗で追う展開となった。友砂部屋、九十九部屋が元気というここまでの様相。この3人が西磯野にどういった相撲を見せるか楽しみだ。

（錦虎）

日向藤○（寄り切り）●琴乃王

電　幕●（寄り切り）○葵　盛

今場所の幕下はどのような展開になるのだろうか。幕下上位で十両昇進を狙うのは春日根部屋の西勢ノ里と西安。一足早く十両昇進を果たした西磯野が好スタートを切っていて部屋の雰囲気も良く、その波に乗って行きたいところだろう。

西勢里○（寄り切り）●雪若丸

場所前に引退した黒船枠で幕下入りを果たした暫は友砂親方が期待の一人。新幕下の真田丸とともに、幕内一人となっている友砂部屋の再生に期待がかかる。

暫　○（寄り切り）●英前田

真田丸○（押し倒し）●昊翔龍